

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

商品を販売するマーケティングの世界では、「ニッチ」という言葉はすき間にある小さな①キボのマーケットの意味で使われます。

②、誰もが買うような人気の商品があります。その一方で、一部のマニアックな人しか買わないようなレアな商品があったとします。レアな商品は、たくさんは売れませんが、確実に買ってってくれる人がいます。このような大きな市場のすき間に存在するような商品を「ニッチ」と呼びます。

生物学という「ニッチ」は、もともとはナンバー1になれる場所のことですから、小さくなければいけないということはありま
せん。

小さなニッチもありますが、大きなニッチもあります。

しかし、ニッチはナンバー1になれる場所です。③ニッチでナンバー1になり続けることは大変です。

たとえば陸上競技で考えてみましょう。

世界で一番足が速いという④ニッチには、世界でただ一人の人しかなることができません。しかも、すべてのレースに勝ち
続けることは大変です。

それでは、少し範囲を狭めてみるとどうでしょう。

日本一足が速いというニッチにすれば、世界一よりは簡単です。学校で一番とか、クラスで一番というように⑤範囲を狭めてい
けば一番になりやすくなります。

種目を絞るという方法もあります。一〇〇メートル走で一番とか、二〇〇メートル走で一番、一五〇〇メートル走というように
種目を分けていけば、一番になりやすくなります。

⑥、そうは言ってもそんな方法でも一番になることは大変です。「速く走る」という競技に参加する人は大勢います。そん
な中で一位になるのは大変なのです。

もつともつとニツチを小さくしてみましよう。

たとえば、運動会ではバラエティに富んださまざまな種目があります。

障害物競争が一番速いというのはどうでしょう、網あみをくぐるのが一番だとか、平均台わたを渡るのが一番だというようにもつと分け
てみてもいいでしょう。

⑦、ぶら下がったパン食い競争やスプーンでボールを運ぶスプーンレースもあります。お題に沿ったものを借りてくる借り物競争というものもあります。運動会は速く走る以外にも、さまざまなナンバー1が生まれるように工夫されています。

じつは、自然界の生き物もこのように条件を細かく設定することによってナンバー1になれるニツチを確保しています。

翻ひるがえつてみると、すべての生物がこの地球上で、⑧ニツチを分け合っているということもできるでしょう。

⑨ナンバー1になれるニツチを探す二つ目のポイントは「⑩フィールドは自分で作ること」です。

何も、すでにある分野で一番になることはありません。

たとえば、国語や数学などのすでに用意されている科目で一位になる必要はありません。一〇〇メートル走や学校のマラソン大会のような、すでに用意されている種目で一位になる必要もありません。テストの点とか、偏差値へんさちのように、既存きぜんの評価きやうで競う

⑪必要もありません。

自分が一番になるための「ものさし」は自分で作ってしまえばいいのです。

『ドラえもん』に出てくるのび太くんは、もしもの世界を作ることができる「もしもボックス」というひみつ道具で、この世界とは価値観ちかの違ちがう世界を作っていきます。

眠るねむことに価値があるという世界では、のび太くんは、〇・九三秒で寝ねてしまうという世界記録レベルの早技はやわざで、⑫サンジを受け
ました。

「あやとりのうまさがあるものをいう世界」をのび太くんが作った話『あやとり世界』では、得意のあやとりで彼は大スターとなりました。そして、家元となりたくさんの弟子でしに囲まれながら、あやとり大臣を目指すまでになったのです。

のび太くんは、射撃しやげきの名人としても知られています。その才能に目覚めたきっかけは、鼻くそを指ではじいて飛ばしていたことでした。

どんなことでもいいのです。小さなことでもいいのです。

皆さんがナンバー1になるとしたら、どんな世界を「もしもボックス」にお願いしますか？

得意なことや、好きなことはあるけれど、ナンバー1になれるほどの自信がない。

そんなこともありますよね。

生物も同じです。そんなときの生物たちの⑬「センリヤクが⑭ニッチシフト」と呼ばれるものです。

生物は、ナンバー1になれるオンリー1のポジションを持っています。しかし、ニッチは永遠ではありません。

すべての生物がナンバー1になれるポジションを探しているのですから、他の生物とかぶってしまうことがあります。あるいは時代が変化し、環境かんきやうが変わるとナンバー1でいられないときもあります。

そんなとき、生物たちは自分の得意なことを大切にしながら、その得意なことの周辺で、ナンバー1になれるフィールドを作れないか探していきます。

ハシブトガラスは、もともとは深い森にすんでいました。ところが現在、⑮「ジュウタクチや都会の真ん中でゴミを漁あさっています。複雑な森の環境の中を飛び回り、エサを探すという得意を活いかして、ハシブトガラスは都会という複雑な環境をすみかにしているのです。

田んぼに暮らすカブトエビという生き物は、元々は砂漠さばくに暮らす生き物です。砂漠はつかの間の雨が降り、水たまりを作りますが、やがて水たまりは干上ひがってしまいます。カブトエビは、このわずかにできた水たまりの中で、卵からふ化し、一気に成長を遂とげて卵を産むというスピードを得意としています。田んぼは、豊かな水をたたえる環境ですが、夏になるとイネの生育を調整するために水を抜きぬきます。田んぼが干上ひがってしまうこのとき、多くの水の中の生物は、死んでしまいます。ところが、⑯「カブトエビはそれまでに卵を残し、生き残っているのです。」

イワナは、きれいな川にすむ魚です。ところが、ヤマメという魚がいると、イワナは上流部の方に逃げてしまいます。ヤマメはイワナよりも強い魚です。しかし、イワナには「寒さに強い」という強みがあります。そのため、ヤマメが力を^①ハツキできない水の冷たい上流部に移りすむのです。

軸足は動かさず^{じくあし}にしっかりと立ちながら、もう片方の足で立てそうな場所を探していくイメージです。こうして、「^⑮ナンバー1 になれるオンリー1のポジション」を探し続けます。そして、「ナンバー1になれるオンリー1のポジション」を変えていくのです。

^⑰、ずらしながらニツチを、探していくとも言えるでしょう。

皆さんの得意なこと、好きなことがナンバー1になれることではないかもしれませんが。しかし、皆さんの得意なこと、好きなことの近くに、それはあります。それを探し続けるのです。

『はずれ者が進化をつくる』稲垣栄洋

問一 — 部①・⑫・⑬・⑮・⑰のカタカナを漢字に直さない。

問二 部②・⑥・⑦・⑱に当てはまる言葉を次のア～オのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(同じ記号は二度使ってはいけません。)

ア しかし イ つまり ウ 例えば エ むしろ オ あるいは

問三 部③・④・⑧には、どちらの語が入りますか。それぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 大きな イ 小さな

問四 — 部⑤「範囲を狭めていけば一番になりやすくなります」とありますが、それはどうしてですか。次の文のに当てはまる言葉を十字程度で考えて書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

範囲を狭めていけば、から、一番になりやすくなる。

問五 — 部⑨ 「ナンバー1になれるニッチを探す二つ目のポイント」とありますが、では、一つ目のポイントとはどのようなことですか。文中から十二字でぬき出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問六 — 部⑩ 「フィールド」とありますが、これと同じ意味で使われている語句として当てはまらないものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 方法 イ 分野 ウ 評価 エ 科目 オ 種目

問七 — 部⑪ 「必要」とありますが、この熟語と同じ構成のものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 発生 イ 高低 ウ 登山 エ 予告 オ 不明

問八 — 部⑭ 「ニッチシフト」とありますが、これはどのようなものことですか。次の説明のうち、最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 時代と環境の変化によって、ナンバー1になれる場所が他の生物と重なったときに、特性を変化させることでずっと同じニッチでナンバー1になることができるということ。

イ 時代と環境の変化によって、ナンバー1になれる場所が他の生物と重なることがあるため、生物たちが常にニッチを変えながら生き延びていくことができるということ。

ウ 時代と環境の変化によって、ナンバー1になれる場所が他の生物と重なったときに、生物自体が変化に自在に適應できる能力を身に付け、進化し続けるということ。

エ 時代と環境の変化や他の生物との重なりによって、ナンバー1になれる場所がなくなりそうになったときに、生物が今までなかった新しい能力を身に付け、ニッチを作ること。

オ 時代と環境の変化や他の生物との重なりによって、ナンバー1になれる場所がなくなりそうになったときに、得意なことやその周辺でナンバー1になれるフィールドを探すこと。

問九 — 部⑩ 「カブトエビはそれまでに卵を残し、生き残っているのです」とありますが、なぜカブトエビは生き残ることができているのですか。解答らんに合うように文中の言葉を使って五十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問十 — 部⑪ 「ナンバー1になれるオンリー1のポジション」とありますが、筆者は、私たちがどうすること、このポジションが見つけられると言っていますか。文中の言葉を使って、二点に整理して書きなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

ユミコは、お母さんと妹の三人で、おじいちゃんとおばあちゃんの住む福島県に引っ越しすることになった。もうこれが最後だからということで、日曜日に一緒に遊ぼうとマリちゃんは言ってくれたが、家に行くとすでに出かけてしまっていた。なかなか帰ってこないマリちゃんを心配したお父さんは様子を見に行く。

お母さんにこんな心配をかけているマリちゃんが少しにくらしくなってきた。①、マリちゃんはわたしとの約束を破ってミドリちゃんの家に行ってしまった。そんな子はもうこの家に帰ってこなくてもいい。わたしがこのうちの子供になってあげる。

しかし、すぐにこう思った。でも、もしマリちゃんが帰ってこなかったら、マリちゃんのお母さんはとても悲しむだろう。

マリちゃんが帰ってこないことを望むのか。それとも②、ブジに戻ってくることを望むのか……。

③、ユミコは心の中で決めた。

帰ってこなくていい。

わたしが来るのを知っていながら出かけてしまったマリちゃん。こんなにやさしいお母さんを心配させているマリちゃん。あんなにいいピアノがあるのに少しも練習しないマリちゃん。そんなマリちゃんはこのうちの子の④シカクがない。わたしだったらもつといい子でいるだろう。

ふと、もしマリちゃんが帰ってこなければ、ほんとうに自分がこの家の子になれるような気がした。⑤、急に⑥ムネがドキ

ドキしてきた。

ユミコがまたマリちゃんの部屋に戻ってピアノを弾いていると、リビングルームでルルルと電話が鳴るのが聞こえてきた。ユミコは鍵盤の上の手を動かすのを止め、⑦息をこらして耳をすませた。

「もしもし……」

マリちゃんのお母さんの心配したような声が聞こえた。電話は誰だれからなのだろう。交番のおまわりさんかもしれない。それともユウカイの⑧ハンニンからかもしれない。

「まあ！」

⑨お母さんの声が急に明るくなった。

「そうだったの。早く連れて帰ってきてね」

電話の相手はマリちゃんのお父さんだったらしい。

お母さんはマリちゃんの部屋に入ってくると、ユミコに⑩したような声で言った。

「あの子、本屋さんでマンガをずっと立ち読みしていたんですって」

きつとあそこだ、とユミコは思った。ゲームやコミックを安く売っているあの店だ。わたしが教えてあげたのに、どうして店に入ったときにわたしのことを思い出さなかったんだろう。どうして今日のこの約束を思い出さなかったんだろう。

ユミコは、最初にマリちゃんがいなくて知ったときよりもっと悲しくなったけれど、できるだけ明るい声で言った。

「よかった！」

「もうすぐ帰ってくるから、それまで待っていてね」

⑪、帰ろうと思った。マリちゃんが帰ってきてても、もうすることがないのがわかっていた。よく考えてみれば、別にマリちゃんとなんか遊びたくなかったのだ。ここに来たかったのはピアノを弾かせてもらいたかったのと、マリちゃんのお母さんと話をしたかったからだだった。ピアノは弾いた。お母さんにはおいしい紅茶をいれてもらった。それに、⑫もうこの家に帰ってこなくていい、と心の中で決めたマリちゃんに会うことはできない。

「帰ります」

ユミコが言うと、お母さんが肩かたに手をかけて言った。

「待っていて、もう帰ってくると思うから」

「でも、遅おそくなるとうちで心配するから」

家にはだれも心配する人なんかいなかったけれど、ユミコははっきりとした口調で言った。

「そう、ごめんなさいね」

マリちゃんのお母さんはとてもつらそうに言った。

途中とちゆうでお父さんに連れられたマリちゃんに会ったりしないように、急いでエレベーターで一階まで降り、外に出るとすぐ細い

⑬ ロジのところを曲がった。

少し遠まわりになったけれど、もうマリちゃんたちに出会わないというところまで走り、そこからはゆっくり歩いた。

家には茶色い小さなソファで新聞を見ているお父さんがいる。着古こした紺色こんいろのジャージを着て、寝転ねころがりながら。妹は何をしているだろう。ひとりでテレビを見ているかもしれない。

ユミコは家に帰るかわりに、バス通りにあるスーパーに向かった。そこでお母さんはレジを打っている。来ないように言われているけれど、急にお母さんに会いたくなかった。

外からガラス越こしに見ると、お母さんは左から三番目のレジに立っていた。

横顔しか見えなかったけれど、とても疲つかれているようだった。去年までのお母さんはとてもきれいでユミコの自慢じまんだった。マリちゃんのお母さんと同じくらいきれいだった。でも、お父さんとしょっちゅうケンカしたり、あんなふうに働いているうちにすっかり疲れた顔になってしまった。

でも、とユミコは思った。お母さんはわたしたちのために一生けんめい働いているんだ。それなのに、わたしはマリちゃんのうちの子になりたいなんて願ねがったりしていた……。

ユミコは中に入って走り寄り、お母さんの腰こしに抱だきついて言いたかった。

「お母さん、ごめんね」

しかし、ユミコはそうしなかった。妹なら腰こしに抱だきつけるだろうけど、ユミコの背丈せたけはもうお母さんの肩までになっていた。

⑭ ユミコはしばらくそこにじっと立っていたあとで、ようやく家に向かって歩きはじめた。

わたしが帰るのは何もない家だ、とユミコは思った。マリちゃんのうちにあるものは何もない。四階建ての古いマンションにはオートロックの扉とびもないし、エレベーターもない。部屋の中には白いソファもないし、ピアノもない。以前あった車もなくなっってしまった。お父さんと妹はいるけれど、マリちゃんを心配していたやさしいお父さんやお母さんがいない。うちには帰りが遅くなくても心配する人なんていない。

三階につづく暗い階段を上りながら、ユミコは思っていた。

あんなガソリンの切れたお父さんなんかいらぬ。マリちゃんはとても妹をほしがっていたけれど、あんな妹なんかピアノと交換こうかんしてあげる……。

お母さんの作ってくれたポシェットから鍵かぎを取り出すと、扉の鍵穴に差し込み、引き開けた。

玄関からすぐのところに小さな茶色いソファソファが置いてある。お父さんはやっぱりジャージーを着て寝転がりながら新聞を読んでいた。妹はその横でやっぱりテレビを見ていた。

ユミコがうなだれるようにして靴くつを脱ぬいでいると、お父さんが新聞に顔を向けたままの姿勢で言った。

「遅かったな、どうした」

⑮ ユミコはびつくりして言った。

「うん、ちょっと……」

すると、テレビを見ていた妹が言った。

「お姉ちゃん、いまおもしろいのやってるよ」

ユミコはそのままトイレに駆け込んだ。便器に腰を下ろすと、おしっこより先に⑯涙なみだが流れてきそうになった。

『あなたがいる場所』 沢木耕太郎

問一

□部①・③・⑤・⑪に当てはまる言葉を次のア～オのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(同じ記号は二度使ってはいけません。)

ア すると イ そして ウ でも エ それに オ それとも

問二

□部②・④・⑥・⑧・⑬のカタカナを漢字に直しなさい。

問三

□部⑦「息をこらして」の意味として、最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 呼吸を相手の呼吸に合わせて イ 呼吸をおさえてじっとして ウ 呼吸を長く続けようとして

エ 呼吸を何度も整えて オ 呼吸をおおげさにくりかえして

問四

□部⑨「お母さんの声が急に明るくなった」とありますが、なぜですか。二十字以内で説明しなさい。

(句読点は字数に入れません。)

問五

□部⑩に当てはまる言葉を次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア かつと イ はつと ウ ぐつと エ むつと オ ほつと

問六

□部⑫「もうこの家に帰ってこなくていい、と心の中で決めた」とありますが、なぜそのように決めたのですか。解答ら

んに合うように二十五字以内で説明しなさい。(句読点は字数に入れません。)

マリちゃんが帰ってこなければ、□から。

